

たつなわさわ
立縄沢通常砂防事業

受賞機関 福島県県中建設事務所

はじめに

本箇所は、「牡丹のまち」として全国的に名を知られ、昨年「ジャパンエキスポ2001うつくしま未来博」が開催された福島県中通りの須賀川市に位置している。

本事業は、「新ふるさとマイホーム推進事業」の認定を受けて、須賀川市が実施する企業・教育用地や住宅用地などを一体的に整備する面積128haの住宅宅地整備事業地域（須賀川テクニカルリサーチガーデン）を、土砂災害から未然に防止するため、住宅宅地関連公共施設整備促進事業により、砂防えん堤2基を整備した。

事業概要

事業名：通常砂防事業

事業箇所：福島県須賀川市大栗地内

事業主体：福島県

施工期間：平成12～13年度

主要施設：鋼製えん堤2基

（1号H=11.0mL=61.2m）

（2号H=10.0mL=60.0m）

事業の特徴

立縄沢えん堤は、豊かな自然に囲まれた住宅地を保全するため、「自然の生態と共に」をスローガンに、豊かな自然環境の保全と安全で安心できる良好な居住環境の創出の2つの目的を達成するため、事前に既存の自然環境を調査し、「副産物の発生と再利用」、「コスト縮減策」、「自然の復元」について検討を行い、環境負荷低減に配慮し、現在の緑や生態、清流等を保全するよう努めた。

そのため、現地発生土砂約9,000m³をえん堤防の中詰材に使用した。また、現地間伐材の有効利用として管理用通路の土留材として約137m³、舗装材としてチップ加工材約100m³を利用した。現地で発生した自然石を使用し、極力自然溪流に近づけるため、石の配置組合せ等を工夫し生態系に配慮した空積み構造とした。

自然の「保全と復元」を図ることで、地域住民が



在来樹種による緑の復元・ウッドチップ舗装



現地発生の自然石を利用した護岸工



現地間伐材を利用した管理用通路

自然の中で憩い集える潤いの空間を創出し、特に、子供たちには「自然とのふれあいの場」を提供することにより、土砂災害防止の意義を学習するとともに、巨大な倒木の幹から力強く甦る自然の生命力を膚で感じ、動植物の観察など自然を体験学習できるようになり、自然と人との「結いの精神」ともいえる具体的で良好な自然環境及び景観の創造を行うことができた。

受賞賛助会員 ㈱東コンサルタント